



## 三光アルミ株式会社

医薬品や食品などの包装材料を製造する三光アルミ。高い品質と安全性が求められる分野だが、独自の製造技術と徹底した品質管理により、顧客の厳しい要求にも応えている。その根幹にあるのは、「利益は一時、信用は末代」という経営理念だ。



代表取締役社長  
伊藤浩明氏

# 医薬品包装材料PTP印刷のエキスパート集団

医薬品のスタンダードな包装方法の一つ、PTP (press through pack)。錠剤をプッチと押し出すアルミニウム箔とプラスチックのシートといえば、おそろく想像がつくだろう。三光アルミ(株)はこのPTP用アルミ箔を主軸に、医薬品や食品等の包装材料の印刷・加工を手がける。PTP分野では国内有数の生産量を誇り、私たちがよく目にする解熱鎮痛剤や血圧降下剤などのパッケージも同社が担っているのだ。

「PTPの製造には特殊な機械や技術を必要とします。当社はPTPが出た初期から専門に取り組み、技術と実績を培ってきたエキ



埼玉県鴻巣市の川里工業団地にある本社

スパート集団。特に、薄いアルミ箔への印刷技術は世界トップクラスだと思えます」(伊藤浩明社長)

鴻巣市にある同社の工場には、オーダーメイドの多色グラビア印刷機がずらりと並ぶ。アルミ箔の表裏の印刷位置を高い精度で一致させ、高速両面印刷ができる機器だ。このような最新鋭マシンも同社の重要な戦力だが、技術力や機械だけでなく、三光アルミには創業から受け継がれた大事な強みも存在する。それは、顧客視点で見た時の製品や会社への高い「信頼性」だ。伊藤社長は「当たり前前のことを当たり前にするだけ」とさらりと口にしているが、それが

根付いた組織風土こそ、同社発展の礎となった。

**PTPの需要増加を見据え、タケトモが販売、三光アルミが製造という2社体制をとる**

同社の前身となるのは、1948年(昭和23)創業の(株)タケトモ。事業を興したのは伊藤社長の父・伊藤光儀氏(みつぎ)で、東京・高田馬場にて医薬品や食品を包装する紙の製造・加工を始めた。創業2年後には、大手ゼロハンメーカーの代理店業務を開始する。

当時、高田馬場の神田川沿いには製薬会社の工場が複数あり、光儀氏はそのうちの1社に薬包紙として使うゼロハン紙を納めていた。「その時代、中身の見える透明の包装材料はゼロハンしかなかったので、アメヤ横丁では食品を包む

のに使うセロハン紙を高額で販売する紙業者もいたそうです。そんな中でも父は、仕入れ価格に加工賃を加えた正規の値段で納品を続けた。周りの業者からはそれをバカにする声もあつたといいますが

だが、この誠実さが事業発展の追い風となった。顧客の大手製薬会社は、光儀氏を高く評価。結果、他の包装用品の受注につながるなど、家業から企業へと躍進するきっかけにもなった。

「利益は一時、信用は末代だと父は語っていました。この言葉は今でもタケトモ、三光アルミ共通の経営理念にしています」

1950年代半ばには、ヨーロッパからPTPが日本へ伝来。医薬品の携帯性や品質保持に優れたPTPは、60年代には内服薬包装の主流となる。

タケトモはこのPTP時代に対応。1969年に、アルミニウムメーカー、樹脂加工メーカーそれぞれと代理店契約



オーダーメイドの印刷機

を結びと、各種アルミ箔の加工販売、そしてビニールの販売に着手する。さらに翌年、生産力拡大を図るため製造部門を分離。こうしてタケトモから独立し、誕生したのが三光アルミだった。

### 三光アルミ・タケトモ両社の トップを統一することで、 一体感を醸成し組織力を強化

三光アルミは1980～90年代にかけて、アルミ用ドラム式印刷機や多色グラビア印刷機を導入し、印刷設備の充実を図った。そして2005年(平成17)、さらなる設備増強のため、現所在地である川里工業団地に本社・工場

を全面移転する。

しかし工場移転の2005年から約2年にわたり、同社の利益率は低下してしまふ。この危機に三光アルミの社長に就任したのが、96年からタケトモ3代目社長となっていた伊藤浩明氏だった。「赤字が出てしま

った責任は、三光アルミの製品の受注販売を担うタケトモにもあると考えました。ですから私が両社の代表となり、合理化を図るとともに2社の一体感を高めていったのです」

組織力強化により、業績は見事回復。この頃から新卒の定着率が8割を超えるなど、ワーク・エンゲージメントもより高まっていった。

同時期に同社は、製品のさらなる品質向上にも取り組んだ。印刷不良や異物を徹底的に監視するため、オンライン・オフラインの欠点検出装置を導入。ガスクロマトグラフや赤外線検査機、ストログラフ等を使った検査も実施し、顧客の厳しい要求品質に添えていく。そして防虫・防塵対策も万全にしたクリーン工場は、2008年にISO9001の認証も取得した。

### 海外展開と

### 国内市場での新たな柱で、 28年に売り上げ40億を目指す

2021年(令和3)5月、タケトモがベトナムにオフィスを開設した。ベトナムを拠点に、まずは三光アルミが製造

するPTPをアジアへ進出した日系製薬メーカーに販売していくつもりだ。

5年後に売り上げ40億円を目指す三光アルミでは、海外展開以外にも成長戦略を練っている。

「国内では、医薬品包装材料以外でも二つ大きな柱を立てたい。例えばマーケティングが巨大な食品分野では、特許絡みで特殊なものを狙えばまだまだ戦える余地があります。他にも当社の持つ『薄い箔への加工技術』を必要とする業界はあるでしょうし、そこではかなりの勝負ができるはずですよ」

すでにICタグのアンテナ印刷など、電子デバイス分野にも参入している同社。今後も他社がまねできないものづくりと強固な信頼性を武器に、チャンスをつかむ。

### 会社概要

社長 伊藤浩明氏  
設立 1970年(昭和45)12月  
資本金 100百万円  
従業員数 78名  
事業内容 医薬品、食品、その他包装材料の印刷、加工販売。アルミ加工品の販売。各種フィルム材料の加工販売  
所在地 〒365-0001  
埼玉県鴻巣市赤城台362-24  
TEL 048-568-2131  
FAX 048-568-2133  
URL <http://www.sankoalumi.co.jp>  
取引店 埼玉りそな銀行鴻巣支店